



令和5年3月22日(水)
第12回 うすきプラットフォーム

次年度のプラットフォーム運用を考える

～ 多機関・多職種で地域を支えるチカラを高める ～



白杵市民を取り巻く生活環境の変化と対応策について

- 日本全体の人口減少を含め、社会全体が大きく変化していますが、日々の生活の中では実感しにくく、知らず知らずのうちに私たちの暮らしにも様々な影響が表れてきています。
- 様々な選択肢が増えている一方で、個人が抱えるリスクが多様化、複雑化しており、これまで通りの公的な制度やサービスの充実だけでは、生活する上での課題が解決しにくくなっています。
- 多様な関係者が協力し、工夫する「**参画と協働**」を推し進めることが、地域を活性化し、持続的に発展させていきます。

社会全体の変化

- ・ 平均寿命の延伸
- ・ 長期にわたる経済の低迷
- ・ 雇用慣行や労働環境の変化
- ・ 少子高齢化の進展
- ・ 共同体機能（血縁、地縁、社縁）
- ・ 人生観や生活様式の変化
- ・ 対面での交流機会の減少
- ・ 成人年齢の引き下げ …等

リスクの多様化

- ・ ライフイベント（就労、進学、恋愛、結婚、出産、離別等）に伴う想定外の環境変化
- ・ いじめ、差別、虐待、病気、障がい、生活困窮、社会的孤立、災害、事故、感染症、加齢による衰え、家族の介護といった個別性が高く、非定型の課題
- ・ 様々な生きづらさや既存制度への適合しにくさ …等

身近な課題の変化

- ・ 全産業における労働者不足
- ・ 多様で複雑化した課題の顕在化（ヤングケアラー、ワンオペ育児、就職氷河期、望まない孤独や孤立…）
- ・ 気にかかけ、支えあう意識の減退
- ・ 地域の人材不足
- ・ 将来への不安感
- ・ 生活における課題の複雑化 …等

健康的に暮らし、無理なく参画し、協働できる「市民が主役のまちづくり」（地域力創生）

【支える力】を高めていく

- ・ どこに相談しても、適切な支援につながる分野横断的な連携体制
- ・ 協働できる相手を増やし、多様な参画と協働の機会を増やす
- ・ つながりを通じた人材確保

多機関・多職種で地域を支える

多機関・多職種連携

白杵の将来を見据えた
参画と協働の
まちづくり

【守る力】を高めていく

- ・ 暮らしやすく、魅力的な地域づくりと情報の発信
- ・ 移住者の増加による活性化と多様な人々の活躍の場づくり
- ・ つながりを通じた人材育成

コミュニティで地域を守る

地域連携



私たちに出来ることを「5W1H」で整理してみると…

		地域を支える (多機関・多職種連携)	地域を守る (地域連携)
いつ	When	定期的に、	
どこで	Where	うすきプラットフォームで、	生活の場（地域）で、
誰が	Who	多機関・多職種が、	地域住民が、
なぜ	What	変化があっても、臼杵市が暮らしやすいまちであり続けるため、	
何を	Why	関係者でまとめ、 分野を超えた連携（つながり）を	住民がまとめ、 地域を超えた連携（つながり）を
どのように	How	継続していける関係性や環境などを整えていく	

- 臼杵市の地域振興協議会は、概ね統廃合前の小学校区を基準に市内18地区で設置されています。
- 人口減少に伴い、市内の地域全体が結束した「一つのチーム」として地域を超えた協力体制等が求められることから、年2回の臼杵市地域振興懇談会を開催するとともに、平成17年の市町村合併前の旧エリアである「臼杵地区」「野津地区」のブロックごとに連絡会議を設け、関係機関や地域間での情報交換等を通して、さらなる関係性の強化を図ります。
- ブロック連絡会議の開催に関しては、臼杵市地域力創生課が準備等の支援を行いますが、それぞれのブロックの特色を活かしつつ、各地域振興協議会が主体となった運営を目指します。

臼杵市地域振興協議会

地域振興懇談会（全体会）

臼杵ブロック連絡会（11地区）

中央地区振興協議会

南部地区振興協議会

市浜地区振興協議会

振興協議会たていし

上浦・深江振興協議会

あまべ振興協議会

さしう地区振興協議会

下ノ江地区ふれあい協議会

下北地区振興協議会

上北地区地域振興協議会

南津留地区地域振興協議会

野津ブロック連絡会（7地区）

野津地区振興協議会

都松地区振興協議会

田野地区振興協議会

西神野地域活性化推進協議会

川登地区振興協議会

寺子屋ん会

戸上地区振興協議会

※ 行政区順、ブロック連絡会の名称は仮案

今後、取り上げてほしいテーマ

- ・ 一歩踏み込んだ連携につなげるため、各団体同士の協力が必要
- ・ 連携事例をつくり、成功体験を得る
- ・ 地域に対して、どのような情報発信ができるか
- ・ 介入を拒まれたケースへの対応の検討
- ・ ヤングケアラーについて、より深く考えたい
- ・ 子どもの不登校といった教育分野の課題
- ・ 新しい情報を幅広く得たい

1年間のプラットフォームを振り返っての感想等

- ・ 意識共有していくためには、同じテーマを繰り返すこともよい
- ・ いろんな分野の関係者と顔を合わせて会話し、情報を得ることができた
- ・ 多くの人の意見を聞ける機会は、とても参考になった
- ・ 顔見知りになるだけでなく、実際の支援でも繋がることができた
- ・ 事例検討などで、テーマをより深く掘り下げていく回があってもいい
- ・ とても勉強になったが、どこかに広めていくことはできていない
- ・ 情報を共有・交換できる機会に意義があり、話すことで良い知恵が出てくる

どのようなメンバーと一緒に考えていきたいか

どんな体制があれば、地域の課題が解決できそうか